令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）２年　学校番号　３３０　練馬区立大泉学園中学校

	課題分析	授業改善策
国語	授業評価アンケートの結果から、８割以上の生徒が授業に意欲的に取り組み、学習内容を理解していることがわかる。しかし、定期考査では漢字の読み書きや文法問題の正答率が低く、基礎的な知識の定着に課題があった。	・漢字に関しては、毎週行っている小テストを振り返って練習する時間を放課後等も活用して設ける。また、文法等に関しても小テストを計画的に実施し、反復練習を重ねることで、知識の定着に必要な習慣を身に付けさせる。
社会	授業中、プリントやワークの取り組みなど、意欲的に集中して行っている。一方で、アンケートにあるように話し合い活動や発表させる場面が少ないので、生徒の探究心や問題解決の能力を伸長させるために時間設定を増やすことが課題である。	・書画カメラなどの ICT 機器を活用して生徒の関心・意欲を高めるよう工夫を重ねながら、グループの話し合い活動を取り入れて、自分と異なる意見を知り、情報共有をさせながら探究心や問題解決の能力を高めさせていく。
数学	授業アンケート等から、説明や話合い活動を通して理解を深める生徒が多く見られる。一方で、新しい学習内容や思考を要する問題では理解に差が見られる。改善のためには、生徒の理解度に応じた指導や、自ら考える時間の充実を図る必要がある。	・課題提示後は自力で考える時間を確保し、考え方や解法を段階的に整理して基礎の定着を図る。 ・話合い活動や ICT を活用し、考えを比較・共有する機会を設けるとともに、習熟度に応じた課題を取り入れ、個に応じた指導の充実を図る。
理科	授業の実態を振り返り、また授業アンケートの結果を踏まえると、計算分野に苦手意識が集中していることが分かる。適宜、問題を解く機会を増やす必要がある。それによって量をこなし、解き方の基礎を定着させて慣れさせる指導をしなければならない。	・「機会を増やす」には、継続的に宿題を出すことと、小テストの実施をセットで行う。ゴールを設定することで意欲を高める効果も期待できる。 ・「慣れさせる」には、解く量を増やすことが有効であると考え、上記の機会を複数回設定することで達成する。
音楽	授業アンケートで、興味や関心をもつことができる、授業に意欲的に取り組めると回答している生徒がどちらも９割以上である。一方で、自信をもって表現できる生徒を増やしていくことが課題である。	・知覚感受に関しての意識や言語化、表出に関しての技能をさらに高めるため、話し合い活動などで知覚したことの共有・認め合いの場面を増やし自信をもって取り組めるようにすることを目指す。 ・また、音や表現の違いに気付かせるため、静かな環境で聴取の場面を増やす。
美術	調べ学習や話合いの時間が十分とれていない。 定期考査では、色彩と芸術鑑賞の知識に関して正答率が低く、基礎的な知識の定着に課題があった。 授業評価アンケートでは、８割以上の生徒が制作活動や鑑賞活動を通して、学習活動に関心をもてている。	・ICT を活用し、作品の記録や芸術鑑賞の際の意見の共有を促す。 ・ミニテストを実施し、基礎的な知識の定着を促す。 ・作品の展示や発表を行い、学び合いの機会を増やす。
保健体育	様々な競技に触れ、概ね運動を楽しめている。技能の定着に向けて生徒同士の学び合いの場など、共有する場を設けて考えを深めることができた。 説明が十分に理解できずに取り組んでいる生徒が少数おり、拾い切れていない。	・運動の特性に応じて男女別の活動を入れるなど、目標に合わせて柔軟に対応し、学び合いなど共有を図る場を設け、生徒が内容を深める機会を作る。 ・実技でもＩＣＴを活用し、ルールの理解を深め、運動にすすんで取り組める機会を設けていく。

技術・家庭	【技術】 　授業や実習に対して、集中して取り組む時間は増えているが、定期考査での知識定着に課題がある。	・基礎基本を繰り返し確認する活動を取り入れる。タブレットPC等を用いて小テストを行うことで、生徒自身が自分の理解度を即座に把握できるようにする。
	【家庭】 　授業評価アンケートでは理解しやすいとの意見が多く、授業内で発言も積極的である。一方で、定期考査の点数に反映できていなかったため、その場限りではなく、生涯通して生徒の生活に活用できるように知識を定着させていくことが必要である。	・生活に密着した授業展開を行っていく。 ・学習した内容が実際に生活のどのような場面で活用すればよいかを授業の振り返りで行っていく。 ・実習では全員が安全に安心して取り組めるよう指導、環境整備を行っていく。
外国語（英語）	学習習慣の確立は身についてきて、知識・技能は定着が見られるが、思考・判断・表現の特に表現の部分で自分の考えを「言うこと」「書くこと」が出来ていない生徒が多くみられる。	・今後も知識・技能の定着を図る活動を継続するとともに、表現する活動も定期的に取り入れていく。 ・教科書本文の内容をまとめる活動から、イラストとキーワードから本文の内容を表現して伝える活動を取り入れていく。